



アジア民族舞踊交流会終演後 舞台にて

ごあいさつ

財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 犬丸 直

冬季オリンピックで輝いたバンクーバーの祭典も日程を終り、今はあとを追ってのパラリンピックが進行しております。当財団も昨年は中国から玉溪市花灯劇団・韓国から金梅子・テジョン市立舞踊団を東京に招聘して黛民族舞踊団も加わってアジア民族舞踊の相互交流を行ないました。このことは、実に結構なことで、日中韓三国の文化の相互理解を高めるうえで誠に有益であると存じます。毎回舞踏家の方々の若く活発な活動振りに接し、その芸術のみごとさと、ほとぼしる民族精神を感じ、心に銘じております。中国・韓国の皆様方の来日が皆様方ひとりひとりにとって、有意義であるとともに、生涯にわたり、楽しい思い出となることを、心よりの念願とします。

さて、今年は黛民族舞踊団が中国へ赴いて中国の民族舞踊の方々と交流し、相互学習をする年です。舞台を中国に移して、今年も例年のように華々しい交歓の花が咲き、成果を生むことができると確信し、期待しております。訪中舞踊団は中国側の手厚い歓迎とおもてなしに、感激と思い出に胸をふくらませて帰って参りますことでしょう。その報告を聴いて、私共はアジアの民族舞踊文化をさらに発展興隆させるため、一層の努力を重ね、その成果を積み上げて参りたいと存じます。

アジア民族舞踊交流会

2009年7月5日(火)～7月17日(金)



文化庁清木文化部長表敬訪問

【中国雲南省玉溪市花灯劇団訪日代表団メンバー】

団 長	嚴	偉	雲南省玉溪市花灯劇団団長
芸術総監督	張	亜	前雲南省舞蹈家協会秘書長
副団長	楮	永	玉溪市芸術創作研究所創作室主任
引率者	楊	麗	玉溪市花灯劇団副団長
団 員	沐	榮	沈 建 南
	沐	榮	劉 曉 佳
	刀	青	孫 向 雲
	胡	宇	唐 曉 楓
		鏞	矣 露
			許 偉

【韓国金梅子・テジョン市立舞踊団訪日代表団メンバー】

団 長	金 梅 子	テジョン市立舞踊団芸術監督
練習指導者	李 康 勇	テジョン市立舞踊団
団 員	姜 英 雅	金 智 愛
	裴 眞 模	鄭 美 映
	郭 英 姫	金 志 原
		吳 允 正
		梁 燦 姫
		柳 美 善
		金 奇 錫
		金 漢 徳
		ト 成 洙

【黛民族舞踊団メンバー】

団 長	大野 晃	黛 智英	黛 莉香	黛 真也
団 員	黛 琉美	伊藤みつ子	五月女舞穂	森田 明美
	平出 圭	宇野あかり	京本 千佳	
	田母神裕子			

【スタッフ】

総合プロデュース	大野 晃
照 明	井上 正美・小熊 悦子
音 響	中村 蓉子
舞 台 監 督	八木 清市・松村 若奈

2009年アジア民族舞踊交流会の公演日程

2009年

- 7月7日(火) 成田空港着 舞台打合せ。歓迎レセプション
7月8日(水) 大井町きゅりあん小ホールにて日中韓アジア舞踊交流会
7月9日(木) 海老名市文化会館小ホールにて日中韓アジア舞踊交流会
7月10日(金) 太田市立韮川西小学校にて3年生児童と共にワークショップ
7月11日(土) 太田市新田文化会館エアリスホールにて日中韓アジア舞踊交流会
7月12日(日) 赤坂区民センターにて日中韓アジア舞踊交流会
7月13日(月) 学習院創立百周年記念会館にて日中韓アジア舞踊交流会
7月14日(火) 取材旅行
7月15日(水) 取材旅行、東京ディズニーランド見学
7月16日(木) 中国大使館、韓国大使館表敬訪問
文化庁文化部長表敬訪問
さよならパーティー
7月17日(金) 成田空港より帰国

出演 中国雲南省玉溪市花灯劇団、韓国金梅子・テジョン市立舞踊団、黛民族舞踊団
主催 財団法人 黛民族舞踊文化財団
共催 財団法人 太田市新田文化スポーツ振興事業団
学習院生涯学習センター
協力 財団法人 港区スポーツふれあい文化健康事業団
後援 文化庁
中華人民共和国駐日本国大使館
駐日本大韓民国大使館
日本中国文化交流協会

アジア民族舞踊交流会記録

2009年度は7月に訪日団を迎えることとなりビザ発給時に問題などが生じないように早めに中国に連絡をとる。

3月の交渉初期には8人の予定だった中国雲南省の訪日団員数が急遽14人に増員されたり、訪日間際になって張先生から幹部のビザがとれないと連絡が入るなど混乱をきたしたが、何とか訪日予定日までに手続を完了することが出来た。

7月7日(火)

張先生の取り計らいで中国玉溪市花灯劇団が、夕刻早めに成田に到着、その後タクシー5台に分乗して都市センターホテルに入る。韓国金梅子・テジョン市立舞踊団は太鼓等多量の荷物があるため、中国の舞踊団よりかなり遅れて都市センターに到着。全員がそろったところで、都市センターホテル内の宴会場「アイリス」で歓迎会を開く。日本側スタッフと翌日からの細かい打合せをする。舞踊団各自の舞台用品の整理をし、各自ホテルの自室に戻る。



きゅりあんホール前にて

7月8日(水)

全員がホテルを9時30分に出発し、きゅりあんに到着後13時30分よりの舞台稽古に臨む。

18時30分より本番。東京での初公演も無事終了し、21時30分赤坂の「木曽路」で夕食会をとる予定だったが、中国側が買物で遅くなり、「木曽路」の営業時間に間に合わなくなってしまったので「くっちゃいな」に変更する。初日から混乱のきざし。

7月9日（木）

朝9時にホテルを出て、海老名市文化会館へ向かう。新宿より小田急線で海老名へ。14時からリハーサル。満員のお客様で18時30分から本番が始まる。第1部の後の休憩時間に中国のバリトン歌手崔宗宝さんの歌が入る。

夕食は崔宗宝さんの食堂をお願いしてあったが、手順が悪く、十分な食事が出来ないまま東京に戻る。

7月10日（金）

全員9時40分浅草発東武伊勢崎線の特急で群馬県太田市へ向かう。太田グランドホテルに荷物を置き、エアリスホール差しまわしのバスで太田市立荇川西小学校に向い、ワークショップ（アウトリーチ）を行なう。

中韓訪日団員と荇川西小学校の3年生全員が参加。韓国は小太鼓を打ちながらの踊り、中国は張亜錦先生の指導のもと、中国雲南省の少数民族の民族舞踊を小学生に教える。先生も生徒たちも皆がんばってよく踊れるようになった。生徒たちはこの日の体験をもとに、9月の荇川西小学校の運動会で保護者の作った衣裳をつけて難しい玉溪市の踊りを発表した。

その後、新田義貞にまつわる東毛歴史資料館を訪問。館長の案内で原始・古代・中世・近世・現代と移り行く日本歴史の一端の説明を受ける。

太田グランドホテルで大野常務理事の見えるのを待って18時より太田市教育委員会の歓迎食事が開かれた。市教育長・岡田孝夫氏が出席。交流の事、太田市の事などがいろいろ語られて夕食会は終了し、各自ホテルの自室に戻る。



太田市のエアリスホールにて

7月11日（土）

朝9時から太田市新田のエアリスホールで中国・韓国・日本の各舞踊団のリハーサルを行う。

14時開演、800名以上のお客様が入り、清水太田市長も出席されて本番は盛会のうちに終演した。18時30分太田発浅草行きの東武特急電車で帰京。

赤坂飯店で中国料理の夕食をとって、ホテルに戻る。

7月12日（日）

午前中は自由行動。皇居・国会議事堂等を見学する。14時赤坂区民センターにて開演。日曜のためお客様も多く、すばらしい公演だった。終演後、中国、韓国の舞踊家たちは買い物に出かける。

7月13日（月）

午前中は自由行動。

学習院創立百周年記念会館に到着後、13時から14時5分までアジア民族舞踊交流会研究会のシンポジウムを開催。諏訪春雄学習院大学名誉教授の司会で、日本・中国・韓国の舞踊団の団長がパネラーとして参加し、各代表団の歴史の紹介から始まりパネルディスカッションに入る。内容は日中韓の団員による実技を交えながら基礎訓練についてと伝統の保存と現代化について討論された。

シンポジウム終了後14時15分より日中韓舞踊交流会がスタート、16時40分終了。ウィークデーのためお客様の入りを心配していたが、学生さん達の入場も多く、一安心というところだった。

夕方、公演終了後は中韓の舞踊団はショッピング。夕食は「赤坂飯店」で。



アジア民族舞踊交流会で中韓両国の団長を紹介する大野常務理事

7月14日（火）

踊りを離れて、東京発9時の踊り子105号に乗って伊豆下田へと取材旅行に出発。途中、伊東を過ぎると太平洋の一部が姿を現す。海を見たいという中国の団員たちは喜んだが、楽しみにしていた富士山はまったく見えず残念だった。海を見ながら11時43分下田到着。14時発の黒船に乗って伊豆の海を回遊。

カモメがたくさん飛んで来て中国の人も韓国の人もエサをやりながら、大喜びで写真をとるなど楽しい船旅を終えた。その後、唐人お吉で有名な玉泉寺、了仙寺、宝福寺をまわって水族館でイルカショーを見学。下田駅に戻り、伊豆急で稲取駅に向かう。中村支配人の出迎えを受けて稲取温泉に到着。

海の幸の船盛りなど豪華な食事と日本酒ですっかり興が出て中韓の舞踊団の団員たちが交互に唄ったり踊ったり楽しい時間を過ごした。閉会の後は温泉に入ったり、皆で夜の海を眺めたりしてから深い眠りについた。

7月15日（水）

中国の舞踊団員たちは早朝にホテル前の水際まで行き、寄せては引く伊豆の海の波を眺めていた。

8時に朝食をすませ、9時22分発の踊り子102号で稲取から大船へ。山根先生が手配して下さった貸し切りバスに乗り、昼食をバスの車内でとりながら藤沢市の鵜沼海岸にある聶耳（ニエアル）記念碑に向かう。中国国歌の作曲者として名高い聶耳は1935年7月にこの海岸で遊泳中遭難した。今回来日した花灯劇団は聶耳の出身地の玉溪市が本拠地であり、聶耳記念碑の訪問を希望していた。念願がかなった花灯劇団は記念碑に参拝し、民族舞踊を踊って記念撮影をした。



聶耳記念碑の前で踊る中国の舞踊団員

その後一行は鎌倉を訪れ、鎌倉大仏、鶴岡八幡宮、建長寺を見学、大仏と写真を撮ったり、おみやげを買ったりして楽しいひとときを過ごした。

午後は一旦ホテルに立ち寄り、ディズニーランドへ。シニア組と若者組にわかれてそれぞれの好みに応じてアトラクションを楽しんだ。人出の多さに一同がびっくりする場面もあった。

7月16日（木）

10時韓国大使館、中国大使館にそれぞれわかれて表敬訪問。その後、文化庁を訪れ清木文化部長にお会いする。中国、韓国のそれぞれの舞踊団の団長があいさつし、部長におみやげを差し上げ、皆で記念写真を撮り退出する。昼食は黛ビル隣の本曾路ですきやき（日本食）。

午後は浅草の雷門へ。仲見世通りで買物の後、浅草寺を見学する。その後、メトロで赤坂見附へ。

18時から赤坂飯店でさよならパーティーを開催。犬丸理事長、大野常務理事、中韓の舞踊団の団長があいさつし乾杯。おみやげ交換を行う。パーティーの終了後も中国、韓国の舞踊団員たちは10日間の楽しかった思い出のなごりを惜しむかのようにいつまでも黛スタジオに残っていた。

7月17日（金）

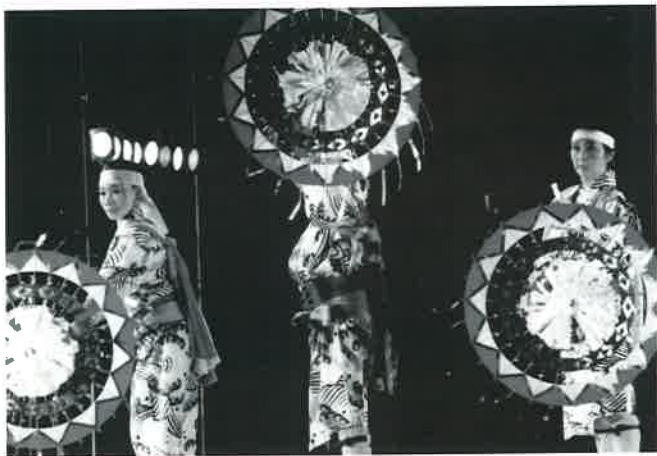
ホテルで朝食をすませ成田へ。成田で花灯劇団訪日団を送り、続いて韓国金梅子・テジョン市立舞踊団を送る。

こうして第13次日中韓のアジア民族舞踊交流会を無事に終える。



下田市了仙寺にて

——交流会の舞台より——



傘踊り（日本）



オウルリム（韓国）



茶山新歌（中国）



花腰の踊り（中国）



ややこ踊り（日本）



風流佳人（韓国）



鳩間仲森（日本）



越中おわら（日本）



チャンゴの舞（韓国）



花僕僕（中国）



伊予万才（日本）

テジョン夏の一夜のダンスフェスティバル

—国際舞踊祝祭—

2009年8月24日(月)～8月27日(木)

8月24日(月)

成田発JAL955便にて韓国インチョン空港に16時40分到着。

17時40分、インチョン空港よりテジョンにバンで移動、3時間乗り21時COSMOS HOTELに到着。通訳はアジア民族舞踊交流会で韓国側の通訳を担当した徐琴美さん。

8月25日(火)

朝、各自朝食をすませ、13時から17時までテジョン市立舞踊団の稽古室(アートホールのリハーサルルーム)でリハーサル。17時から18時まで野外舞台でのリハーサル。終了後に朴再姫先生がお見えになる。

20時から本番。真暗い池の上に出来上がっている舞台上で美しいライトの効果により、幻夢的なすばらしい舞台が現出した。

前回韓国を訪れた時お目にかかった朴先生を始め日本に来た諸先生が皆見に来て下さった。



黒田節(黛 琉美)

8月26日(水)

朝ホテルを出発。インチョン空港で先に帰国する4人を見送り、残った舞踊団員は観光と公演(アンサンブルホール)観覧した。その後金梅子先生に夕食の御招待を受ける。

8月27日(木)

8時30分JAL954便でインチョン空港出発。
13時成田空港着。

当日のプログラム

1. 傘踊り
2. 黒田節
3. ややこ踊り
4. 祝い舞
5. 黒島口説



ややこ踊り



傘踊り

民族舞踊を子供たちへ

—群馬県太田市立綿打小学校—

2009年7月6日(月)



群馬県太田市立綿打小学校にて

2007年のアジア民族舞踊交流会で、中国・韓国の舞踊家に教わったそれぞれの国の舞踊をその年の秋の運動会で発表したところ好評を得たことがきっかけとなり、2008年には日本の民族舞踊を黛民族舞踊団が3年生86人に教えた。

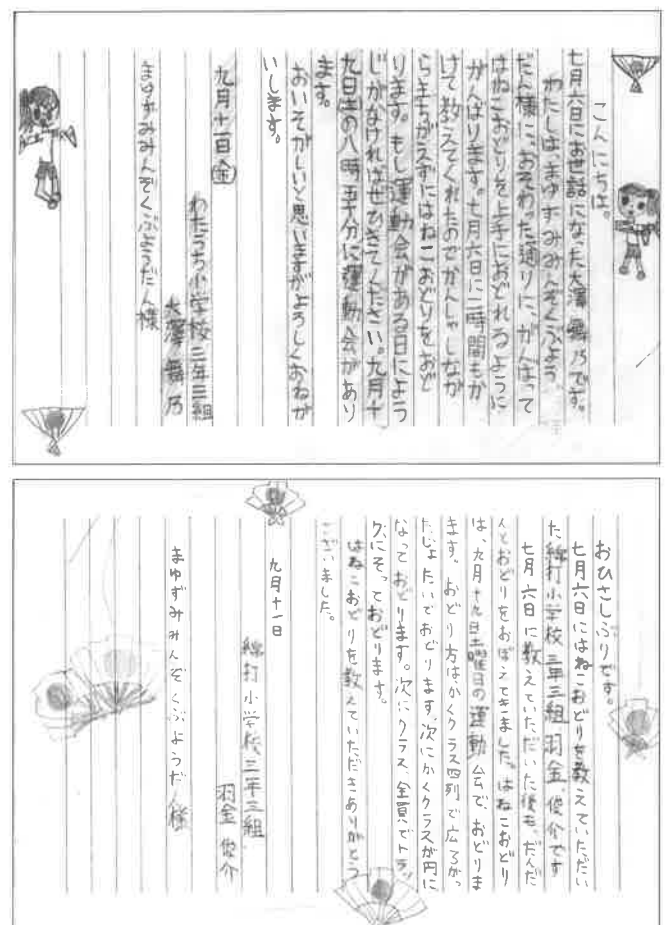
2009年7月晴天のいち日、群馬県太田市立綿打小学校の大島校長先生より、去年と同じ様に「はねこ踊り」を教えて下さいと連絡が入り、担任の田島先生のもとで、踊りに意欲を燃やしてレッスンをすることになった。

7月6日、浅草発7時40分の特急りょうもう号に乗り、太田駅からタクシーで綿打小学校に着いて10時より子供たちを指導した。当日の黛民族舞踊団のメンバーは黛智英、黛莉香、平出圭、伊藤みつ子、田母神裕子、小島千佳子の6名、「はねこ踊り」を指導する。

最初とはまどっていた子供たちも壇上の踊り手の模範演技を見たり、グループに分かれて踊りの手順をひとつひとつ学ぶことによりしだいに踊りに慣れ親しみ、体得していくようだった。この年の9月19日の秋の運動会では、この「はねこ踊り」を基礎として田島先生が振り付けをした踊りが3年生により踊られた。

又、田島先生の生徒の皆さんから黛民族舞踊団宛に読みきれないほどたくさんの感想文が届けられた。紙面の関係ではほんの一部しか掲載できなかったことは残念でした。

感想文より



2010年世界舞踊祭に参加

2010年3月6日(土)・7日(日)

茨城大学教授国枝たか子先生主宰の「世界舞踊祭」が、今年も港区赤坂区民センターで開催された。この催しには世界各国の民族舞踊を中心に、出演団体はプロとアマチュアが混じった構成で幅広いジャンルの舞踊グループが出演した。

出演した各団体の演目は次のとおり

3月6日

インド舞踊「バラタナティウム」
ペルー民族舞踊
オーロラと白夜の国のヴァイオリン
日本民族舞踊「棒おどり」(黛民族舞踊文化財団)
日本舞踊「越後獅子」
山伏神楽「八幡舞」
イサドラ・ダンカンの舞踊
バレエ「オリガ・サファイア作品」
スペイン舞踊「クラシコ・エスパニョール」
中国・チベット少数民族舞踊

3月7日

イサドラ・ダンカンの舞踊
スエーデン民族舞踊
スペイン舞踊
南インド古典劇「クーリヤッタム」
北海道の民俗芸能(アイヌ)
中国・チベット少数民族舞踊
バレエ「オリガ・サファイア作品」
剣舞「春望」「本能寺」
モダンダンス(小学生)
日本民族舞踊(黛民族舞踊団)
舞とベリーダンスと篠笛の
コラボレーション「天の岩戸」
ヨーロッパの優雅な様式の舞踊
ペルー民族舞踊
ノルウェー民族舞踊
タンダバハダンスカンパニー
マレーシア民族舞踊
ギリシャ民族舞踊
南インド古典劇「クーリヤッタム」
日本舞踊「越後獅子」
インド舞踊「バラタナティウム」



曲目解説をする大野芸術監督



博多節(黛 琉美)

当舞踊団の演目は次のとおり

傘踊り	(日本・鳥取県)
博多節	(日本・福岡県)
花笠踊り	(日本・山形県)
鳩間仲森	(日本・沖縄県)
棒踊り	(日本・鹿児島県)

スタッフ

総合プロデュース	大野 晃
照明 (エクサート松崎)	井上 正美
音響 (オルフェオ)	島村 孝
舞台監督 (ニケステージワークス)	八木 清市

製作 世界舞踊祭実行委員会
委員長 国枝 たか子

日枝神社仲秋管弦祭取材日記

2009年10月3日(土)
日枝神社 内庭

小野雅楽会の協賛を得て、山王太鼓一日枝神社の奉賛青年会の太鼓ではじまり、美しい夜空に満月が見え隠れするなか

管 弦 平調音取、王昭君

嘉辰一朗詠一、陪 臚

神楽舞 四方拝、浦安の舞、日枝の舞

舞 楽 振 鈴、長保楽、賀殿破

上記演目が奉納された。



舞 楽



神楽舞

冷泉家 王朝の和歌守展

2009年11月14日(土)

当財団の冷泉貴実子評議員の冷泉家主催による、『王朝の和歌守展』が東京で開かれた。11月14日、天皇皇后両陛下の御臨席の下、東京文化会館で「乞巧奠」が開かれ、当財団の大野常務理事もその席にご招待を受けて列席した。

民族文化の会

2009年度

学習院大学名誉教授諏訪春雄先生（当財団評議員）が代表される民族文化の会と当財団との共催で毎月開かれている「民族文化の会」も、回を重ねるごとに民族舞踊を含む多方面の先生方のお話が増え、より充実した勉強会となっている。

今年度は11回開かれた。日時、内容、講師（敬称略）はつぎのとおり。

2009年4月19日「聖なる鳥が文字と出会った」北島信一「舞踊の変身装置—日本と東アジア」諏訪春雄

5月10日「マスク（仮面）—王権の仮面と異形の仮面—アンデスにおける仮面のアイデンティティーの源流」下野 泉「地球上における仮面の最初の製作者は農耕民族か狩猟民族か—考古学者故佐原真氏・春成秀爾氏との論争—」諏訪春雄

6月7日「阿蘭陀通詞の一分とは」白石広子「日本の家の構造—縄文から現代まで—」諏訪春雄

7月19日「明清期創建の鄭成功廟の信仰と傳承」小俣喜久雄「日本の年神—正月の来訪神—」諏訪春雄

9月6日「韓国人と日本人の感情表現」李 明玉「日中楽戸の比較—芸能史の深層—」諏訪春雄

10月11日「古代日本における物部氏の役割」村山直子「闇から光へ—日本人の生命更新原理—」諏訪春雄

11月15日「韓国文化の特徴—家族と孝について—」山田恭子「東アジアの建築の徹底検討」諏訪春雄

12月6日「中原の覇者、中主」白名一雄「琉球王権と豊臣・徳川政権の秘密」諏訪春雄

2009年1月8日「日韓の語り物芸」諏訪春雄（ビデオ「イタコになったカミサマ」・DVD「春香伝」映写）「浮世絵に見る歌舞伎」藤澤 茜「韓国東アジア伝統文化研究院の構想」金 容國

2月7日「三輪山から漲水御嶽」福 寛美「日本の宮中舞踊」諏訪春雄

3月8日「江戸文化の秘訣は『連』にあり—烏亭馬馬と大田南畝」圓山 稔「日本と韓国の祭礼」諏訪春雄



中国玉溪市聶耳広場の聶耳銅像

財団法人

黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3)日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、(4)世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5)民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げます次第です。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます次第です。

民族舞踊文化 No. 22 2010年5月12日発行
〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F TEL 03-3583-3633(代)
FAX 03-3583-3639

発行人 犬丸 直 編集人 大野 晃
財団法人黛民族舞踊文化財団

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAK, MINATOKU, TOKYO